

第11回 相模川川づくりのための土砂環境整備検討会

－ これまでの検討経緯 －

目次

1. 相模川水系土砂管理懇談会・土砂環境整備検討会の経緯	2
2. 相模川川づくりのための土砂環境整備検討会の議事概要	5
3. 第10回 相模川川づくりのための土砂環境整備検討会 議事要旨	7

平成26年10月8日(水)

国土交通省 京浜河川事務所

神奈川県 流域海岸企画課

神奈川県 企業庁 利水課

1. 相模川水系土砂管理懇談会・土砂環境整備検討会の経緯

「相模川水系土砂管理懇談会」(H13.3~H15.3)

- 「地域住民、学識経験者、関係機関および関係行政機関によって構成され、平成13年2月から平成15年3月の間6回(+1回の現地見学会)実施し、提言書としてとりまとめた(平成15年6月)。
- 土砂動態マップを先駆的に作成し、相模川流砂系全体の土砂移動の過去から現在及び未来について推定し、課題整理、あるべき姿の検討などに活かした。

- 提言書として以下の2つをとりまとめた(平成15年6月)。
 - 相模川の健全な土砂環境をめざして 提言書(本編)
 - 相模川の健全な土砂環境をめざして 提言書(参考資料)

全6回開催(+現地見学会1回開催)

開催日	会議
H13. 2.19	第1回懇談会
H13. 5.21	現地見学会
H13.10. 5	第2回懇談会
H14. 3. 8	第3回懇談会
H14. 9. 9	第4回懇談会
H15. 1.15	第5回懇談会
H15. 3.26	第6回懇談会



「相模川川づくりのための土砂環境整備検討会」(H15.12~)

以下を目的に検討会を設置

- 懇談会での提言を踏まえて、相模川の健全な土砂環境を目指した取り組みの実施方針の提案及びその対策効果の検証を行う。
- 今後の土砂環境改善に向けた具体的な方策について、市民、学識経験者、関係機関、行政の方々が一堂に会して議論を深める。

- 置き砂試験施工(提言書の当面の対応)
- 置き砂実施方法の検討
 - モニタリング計画の検討
 - 試験施工の実施
 - モニタリング調査結果の評価

- その他検討
- 置き砂以外の土砂環境改善のための対策
 - 土砂動態から見た河道管理上の課題の把握
 - 対策効果を把握するための手法
 - 相模川流砂系総合土砂管理計画(仮称)策定に向けた今後の取組み(ロードマップ(案))

現在までに10回開催(+現地見学会を2回開催)

開催日	会議
H15.12.12	第1回 検討会
H17.2.14	第2回 検討会
H17.12.1	第3回 検討会
H19.3.15	第4回 検討会
H19.10.5	現地見学会
H20.3.21	第5回 検討会
H21.1.26	第6回 検討会
H21.11.19	第7回 検討会
H22.3.29	第8回 検討会
H24.3.22	第9回 検討会
H25.3.14	現地見学会
H26.3.24	第10回 検討会



相模川流砂系総合土砂管理計画(案)の策定

1. 相模川水系土砂管理懇談会・土砂環境整備検討会の経緯

■提言の骨子

【土砂環境のあるべき姿のイメージ】

あるべき姿のイメージ：「昭和30年代前半の相模川(健全な流砂系)をめざす」

目標

- (1) 山間流域及びダム下流河道の土砂移動の回復
- (2) 山間溪流、河道、周辺海岸の生態系・利用環境の回復
 - ① 山間溪流環境の保全、回復
 - ② 相模ダム湖の貯水容量の確保
 - ③ 河原系植物が生育できる礫河原の回復
 - ④ 魚等の水生生物の生息場となる浮き石環境(瀬・淵)の回復
 - ⑤ 相模湾有数の河口干潟環境の回復
 - ⑥ 茅ヶ崎海岸(柳島地区)の砂浜の回復

【土砂管理の基本方針】

流砂系での連続した土砂の流れの管理

(土砂災害、河川災害、海岸の波浪災害を防止しつつ、山間流域における土砂移動の確保、城山ダム下流への土砂供給の確保、堰・床止め地点における土砂移動の確保、海岸の沿岸方向の土砂移動の確保をふまえた管理)

土砂移動の時間的概念に配慮した管理

(移動する土砂は粒径毎にその移動速度が違うため、土砂移動に影響を及ぼす要因と現れる影響の時間差が長期に及ぶことをふまえた管理)

土砂の量・質と河川、海岸環境の関連に配慮した管理

(土砂の量・質が形成する地形と河川、海岸環境の関連性をふまえた管理)

土砂を運搬する水量の管理

(土砂運搬能力と河川水量(洪水時、平常時)の関連性をふまえた管理)

【健全な土砂環境をめざした対応】

流砂系での連続した土砂の流れの回復に向けた対応

流砂系での連続した適切な土砂の量と質の流れを確保できる方策を基本とする。

効果や影響をモニタリングしながらの順応的な対応

土砂動態や環境に関する相模川の既存データが必ずしも十分でないことをふまえ、相模川の当面の対応として有望な「ダム浚渫土等を利用した下流河川への置砂対応」の実施、モニタリング方針を提案し、対策効果を検証する。また、同時に土砂移動と環境との関係を把握するための調査、研究を推進し、相模川の土砂環境の目標達成に向けた順応的な対応方針を立案する。

【対応に向けての仕組みづくり】

関係行政機関の連携強化

相模川の土砂環境改善のため、砂防、森林、ダム、河川及び海岸等関係行政機関が一層の連携を図り、土砂問題へ対応していくことを提案する。

土砂環境改善に向けた仕組みづくり

相模川の土砂環境改善にあたっては、地域住民、学識経験者、関係機関、関係行政等が一堂に会して議論を深め、その成果を施策に生かす場の設置を提案する。

(出典：相模川の健全な土砂環境をめざして 提言書(H15.6))

相模川流砂系における対応



(出典：相模川の健全な土砂環境をめざして 提言書(参考資料))

1. 相模川水系土砂管理懇談会・土砂環境整備検討会の経緯

【第10回 相模川 川づくりのための土砂環境整備検討会 委員名簿】

【相模川水系土砂管理懇談会委員】

- 委員 氏家 雅仁 桂川・相模川流域協議会
- 委員 川嶋 庸子 市民ネットワーキング・相模川
- 委員 篠田 授樹 桂川をきれいにする会
- 座長 砂田 憲吾 山梨大学工学学域教授
- 委員 浅枝 隆 埼玉大学理工学研究科教授
- 委員 佐藤 慎司 東京大学工学系研究科教授
- 委員 星野 義延 東京農工大学農学部助教
- 委員 西村 和久 東京都内湾漁業環境整備協会理事
- 委員 山本 晃一 (財)河川環境管理財団研究総括職
- 委員 菊地 光男 相模川漁業協同組合連合会長
- 委員 落合 義延 相模川沿岸用水堰連合会長
- 委員 中村 一誠 神奈川県内広域水道企業団浄水部長
- 委員 三井 克己 山梨県土木部治水課長
- 委員 根岸 秀之 山梨県土木部砂防課長
- 委員 高橋 豊 神奈川県県土整備部河港課長
- 委員 山下 勝 神奈川県県土整備部砂防海岸課長
- 委員 大谷 利春 神奈川県企業庁利水局利水課長
- 委員 谷村 大三郎 国土交通省宮ヶ瀬ダム工事事務所長
- 委員 海野 修司 国土交通省京浜工事事務所長

区分	氏名	所属
市民	氏家 雅仁	桂川・相模川流域協議会
	篠田 授樹	桂川をきれいにする会
学識者	浅枝 隆	埼玉大学大学院 理工学研究科環境制御工学専攻 教授 (委員長)
	水津 敏博	神奈川県水産技術センター 内水面試験場長
	佐藤 慎司	東京大学大学院 工学系研究科社会基盤工学専攻 教授
	星野 義延	東京農工大学 農学部地域生態システム学科 准教授
	山本 晃一	公益財団法人 河川財団 河川総合研究所 所長
	関係機関	細野 収司
木藤 照雄		相模川漁業協同組合連合会 代表理事会長
市川 学		神奈川県内広域水道企業団 技術部長
行政関係	中嶋 晴彦	山梨県 県土整備部 治水課長
	小池 厚	山梨県 県土整備部 砂防課長
	鈴木 勲生	神奈川県 県土整備局 河川下水道部 流域海岸企画課長
	横溝 博之	神奈川県 県土整備局 河川下水道部 河川課長
	小内 薫	神奈川県 県土整備局 河川下水道部 砂防海岸課長
	杉山 孝一	神奈川県 県土整備局 厚木土木事務所長
	酒井 修一	神奈川県 企業庁 企業局 利水電気部 利水課長
	菅野 泰彦	神奈川県 企業庁 企業局 相模川水系ダム管理事務所長
	影山 雅映	神奈川県 企業庁 企業局 相模川水系ダム管理事務所 相模ダム管理所長
	杉山 文章	神奈川県 環境農政局 農政部 農地保全課長
	鶴飼 俊行	神奈川県 環境農政局 水・緑部 水産課長
	石井 明文	上野原市 企画課長
	野崎 寿徳	相模原市 環境経済局 環境共生部 水みどり環境課長
	谷口 英博	国土交通省 関東地方整備局 相模川水系広域ダム管理事務所長
	船橋 昇治	国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所長

2. 相模川川づくりのための土砂環境整備検討会の主な議事概要

これまでの相模川水系の土砂管理に関する検討会の主な議事

- これまでに検討会を10回(+現地見学会を2回)を実施した。
- 検討会では、第3回までに置き砂実施計画の立案と事前モニタリング調査を実施した。
- 第4回(H18年度)から置き砂試験施工(現地土砂を使用)を行い影響や効果を議論した。
- 第6回(H20年度)から置き砂に相模ダムの堆積土砂を約20%混入して影響の有無を議論した。置き砂以外の対策に関する議論が加えられた。
- 第9回(H23年度)から改めて土砂管理のレビューを行い、河道部の課題や相模川水系土砂管理計画(仮称)の策定に向けたロードマップを示した。

検討会	開催日	主な議事(検討に係る項目を抜粋)	主な内容及び結果
第1回検討会	H15.12.12	<ul style="list-style-type: none"> ・置き砂の実施計画(案)について ・置き砂実施に伴うモニタリング計画(案)について 	<ul style="list-style-type: none"> ・置き砂設置地点案、概略モニタリング調査項目案提示 →置き砂は継続して実施することが重要 →置き砂の設置位置は基本的に上流の方がいい →土砂を流すと農業関係の取水堰に影響があるので堰上流での実施は反対 →その場所にあった砂礫を入れる必要がある
第2回検討会	H17. 2.14	<ul style="list-style-type: none"> ・置き砂の事例 ・これまでの課題と今後の対応 ・置き砂の実施計画(案) ・置き砂実施に伴うモニタリング計画(案) 	<ul style="list-style-type: none"> ・相模川・他河川での置き砂事例の紹介 ・置き砂設置地点案、モニタリング調査具体案の提示 磯部頭首工下流の座架衣橋地点を候補地に追加を提案 置き砂量を4,000~5,000m³とする提案 →4,000m³の土砂は地形変化を起こすには不十分であるが、生物に影響を与えるには十分である
第3回検討会	H17.12. 1	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂管理計画について ・第2回土砂環境整備検討会以降の取り組み ・相模川における土砂環境改善の進め方 ・置き砂試験計画等 	<ul style="list-style-type: none"> ・相模川流砂系で生じている土砂環境の変化の現象と課題をとりまとめた ・河床変動解析により現在の土砂供給量を推定するとともにダムからの土砂供給時における河道の土砂動態を予測した資料を提示 ・座架衣橋地点において、現地土砂を用いた置き砂試験施工計画の提示 →合意 ・事前モニタリング結果報告・置き砂流下後のモニタリング調査計画の提示
第4回検討会	H19. 3.15	<ul style="list-style-type: none"> ・置き砂試験施工とH18年度出水による土砂移動モニタリング調査結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地土砂を用いた置き砂試験施工でのモニタリング結果報告 →礫成分については200m移動、砂分については2km程度まで、河岸に土砂がたまっていた。付着藻類については影響は見られなかった。底生生物については悪影響は生じなかった。水質調査については影響は小さかった。 ・H19年度試験施工(案)の提示 →引き続き同程度の質及び量で実施することを合意
現地見学会	H19.10.15	<ul style="list-style-type: none"> ・相模川河口、茅ヶ崎海岸 ・三川合流地点(厚木無線中継所) ・置き砂試験施工地点(19.6k右岸) ・磯部頭首工(左岸) ・城山ダムサイト(城山大橋) ・相模ダムサイト(相模湖大橋) ・相模湖浚渫箇所(桂橋) ・桂川・清流センター入口(河口より約66k) 	
第5回検討会	H20. 3.21	<ul style="list-style-type: none"> ・置き砂試験施工とH19年度出水による土砂移動モニタリング調査結果他 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地土砂を用いた置き砂試験施工でのモニタリング結果報告 →現地土砂を用いた置き砂流下による河川環境への悪影響はほとんど見られなかった。 ・次年度以降の置き砂試験施工案の提示 →相模ダムの浚渫土砂を現地の河床材料とブレンドする形で実施について合意

2. 相模川川づくりのための土砂環境整備検討会の主な議事概要

検討会	開催日	主な議事(検討に係る項目を抜粋)	主な内容及び結果
第6回検討会	H21. 1.26	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度置き砂試験施工の実施方針 置き砂以外の土砂環境改善の施策 	<ul style="list-style-type: none"> H20年度置き砂試験施工条件の提案 <ul style="list-style-type: none"> →現地の河床材料に相模ダムの浚渫土砂を20%混入させて、土砂量は前回と同様5,000m³平常時の浚渫土砂の流出を防ぐため置き砂の表面を現地の河床材料で覆う →海の生物への栄養塩の補給などの観点からも砂分が多い土砂を流す必要がある 置き砂以外の土砂環境改善の施策の検討 <ul style="list-style-type: none"> →河口干潟の復元か可能か検討をお願いしたい →茅ヶ崎海岸にダムの浚渫土砂を養浜している。少しでも川から海への土砂供給が図れるという方向に進むよう期待している
第7回検討会	H21.11.19	<ul style="list-style-type: none"> 相模川の土砂環境改善に向けた今後の取組み 	<ul style="list-style-type: none"> H20年度置き砂設置状況及び出水状況の報告 土砂環境の変遷からみた今後の課題の検討 今後の土砂環境改善の施策の検討 <ul style="list-style-type: none"> →置き砂の他、河道整正も含めて、河川環境・土砂環境改善の検討をしてもらいたい →土砂バイパストンネルのコストを試算し、議論の俎上にあげるべきものか検討する必要がある。
第8回検討会	H22. 3.29	<ul style="list-style-type: none"> 相模川の土砂環境改善について 置き砂試験施工について 	<ul style="list-style-type: none"> 土砂環境改善の施策の検討 <ul style="list-style-type: none"> →置き砂試験施工以外に進められるべきことを再認識しながら進めていきたい。土砂環境の改善ということについて改めて認識して、足元を見ながら進むという行動で位置づけられる会議を考えている。 →各施策の概要で、川の目標のどこに関係して解決に結びついているのか、今までの施策ではどこが解決できていないのか見えてくる。 H20年度置き砂試験施工モニタリング結果報告 <ul style="list-style-type: none"> →付着藻類の回復への影響は見られなかった。洪水によって新鮮な付着藻類が増加した。底生生物への影響は見られなかった。洪水時の水質への影響は確認されなかった。 H21年度置き砂試験施工実施方針の提案
第9回検討会	H24.3.22	<ul style="list-style-type: none"> 相模川水系の土砂管理等について 置き砂試験施工について 今後の土砂環境改善に向けたロードマップ(案) 	<ul style="list-style-type: none"> 土砂動態からみた河道管理上の課題 置き砂試験施工について <ul style="list-style-type: none"> →全般的にインパクトとレスポンスが複雑に絡んだ説明となっており難しい。論点を明確にした整理の方法をした方が、議論しやすく前に進めるものとする ロードマップ(案)の提示 土砂環境改善のための施策の効果を把握するための手法の検討
現地見学会	H25.3.14	現地見学会資料 <ul style="list-style-type: none"> ・神川橋付近(樹林化箇所) ・三川合流付近(土丹露出箇所) ・座架依橋付近(置き砂実施箇所) ・磯部頭首工付近(樹林化箇所) 	
第10回検討会	H26.3.24	<ul style="list-style-type: none"> 相模川水系の土砂管理懇談会・土砂環境整備検討会の経緯 相模川水系の現状と現在のとりくみ 相模川水系総合土砂管理計画策定に向けた今後の進め方 	<ul style="list-style-type: none"> 土砂動態マップ及び60年間の土砂動態の総括図 土砂動態の詳細把握の検討 置き砂試験施工・河床整理のとりくみ 調査検討の方向性について説明 土砂管理計画策定に向けたロードマップ(案)について説明

3. 第10回 相模川川づくりのための土砂環境整備検討会 議事要旨

第10回 相模川川づくりのための土砂環境整備検討会 (H26. 3. 24) 議事要旨 (1/3)

質問・意見		事務局・委員回答	対応等
1. 開会	—	—	—
2. 主催者挨拶	—	—	—
3. 組織改編等に伴う規約改定	(01) 神奈川県企業庁企業局 事業計画部が利水事業部に変更した。学識委員で神奈川県水産技術センター内水面試験場町が、安藤様から水津様に変更した。その他、委員が変更した。【事務局】	○ 規約改定を承認する。	—
4. 議事 (1) 相模川水系の土砂管理懇談会・土砂環境整備検討会の経緯	(02) 懇談会・検討会の経緯について説明した。【事務局】	—	—
4. 議事 (2) 相模川水系の現状と現在のとりくみ			—
1) 土砂動態マップ及び60年間の土砂動態の総括図	(03) 土砂供給量について、砂防堰堤に捕捉された量は把握しているのか。【市民委員】	○ 山梨県と神奈川県に設置されているが、量については把握できていない。【事務局】	—
2) 磯部頭首工周辺・寒川取水堰周辺・三川合流地点の土砂動態	(04) 宮ヶ瀬ダムが完成したことで三川合流の土丹が露出したのではないかと、その原因は宮ヶ瀬ダムの流量制御により洪水が生じないことが問題ではないのか。【市民委員】	○ 存在するデータが限られているので全てを示すことは難しい。三川合流地点では、滞筋の位置が変化したことが問題である。宮ヶ瀬ダムの影響が無い訳ではないが、宮ヶ瀬ダムの建設と同時期に変化が生じているが、宮ヶ瀬ダム、又は、他の要因によるものかを現時点で明確に示すことができない。【行政委員】 ○ 相模川では砂利採取が問題である。洪水が発生するタイミングも重要であり、ひとつの要因だけで現象を説明するのは難しく時系列的に詳細に把握する必要がある。土丹の露出に対して土砂が溜まりやすくなるような対策を講じればよいのではないかと。【学識委員】	三川合流部では、S39年以前の砂利採取により河床低下したこと、交互砂州の伝播により地形が変化し、土丹が露出したと推測される。宮ヶ瀬ダム完成後も河道の侵食・堆積を繰り返しており河道の土砂移動があると考えられるが、中津川からの土砂供給の変化を含め検討をしていく。
	(05) 三川合流地点で土丹が露出して何が問題なのかが分からない。相模川水系全体の中で土丹の影響を考えた方がよい。【学識委員】	○ 相模川で三川合流地点は、水遊びをする等、利用者にとって一番良い場所である。この地点は綺麗な河原環境であって欲しい。座架依橋の河床整理が良い事例であれば、いろいろな箇所でも実施して欲しい。【市民委員】 ○ 土丹露出箇所に巨石を設置したのはあくまで緊急措置であり、抜本的対策ではないので注意が必要である。【学識委員】	
	(06) 三川合流地点について、問題に対する視点が複数あるのかもしれないが、土砂動態マップが示す通過土砂量が、宮ヶ瀬ダム建設後に5万m ³ /年から4万m ³ /年に減少するのは大きな変化である。置き砂の議論をしているが、非常に局所的な議論に向かっていないか。もっと長期的な視点から土砂環境改善を総合化するように議論をして欲しい。【学識委員】	○ 短期的な視点と長期的な視点の両方から内容を見ていく必要がある。【学識委員】	実態把握より、ダム域、河道域、海岸域の課題がわかった。それぞれの課題について、長期的、短期的視点から、総合土砂管理計画で流域全体の対策を検討する。

3. 第10回 相模川川づくりのための土砂環境整備検討会 議事要旨

第10回 相模川川づくりのための土砂環境整備検討会 (H26. 3. 24) 議事要旨 (2/3)

質問・意見	事務局・委員回答	対応等
<p>(07) 相模川の問題は攪乱の減少である。カワラノギクを再生するためにも土砂を供給する必要がある。【学識委員】</p>	<p>○ 現状の置き砂では、河原環境の回復には結び付かないのではないかと。長期的な対策も大事であるが、応急的な対策も考えないと効果を示すことができないのではないかと。【学識委員】</p>	<p>—</p>
<p>(08) 頭首工の構造を少しでも変えることができれば、改善することができるのではないかと。小田急陸橋の下流では多くの土砂が堆積しており、状況を見て問題箇所を対策するのがよいのではないかと。【関係機関委員】</p>	<p>○ 頭首工については、上流部の土砂堆積が進行しており、取水に支障を来す事象が生じている。頭首工下流の河床低下も確認している。適切な対策があれば反対するつもりはない。【関係機関委員】</p>	<p>実態把握より、頭首工の上下流で土砂の不連続が確認された。今後、敷高の高い固定堰部の切下げや河床整理の検討を行う。</p>
<p>3) 置き砂試験施工・河床整理のとりくみ</p> <p>(09) 置き砂に使用する河床材料の粒径の話はどうなっているのか。【学識委員】</p>	<p>○ 粒径については配慮しなければならない。ダム堆砂土の混入率や置き砂量の増加等のステップアップについては、来年度すぐにはなく、検討会の意見等を踏まえて行っていきたい。置いた砂が海まで供給できるなら、ダム堆積土を設置して洪水時に一気に海岸域まで流下させるという方法も案のひとつとして考えられる。これらの視点も含めて今後考えていきたい。【事務局】</p>	<p>置き砂や河床整理については、モニタリングしながら、総合土砂管理計画において、対策の一つとして検討を行う。</p>
<p>(10) 置き砂は、どの程度の量をどこに設置して良いのか分からない。細粒分が多く流れて本当に問題ないのか。海岸域に流れるから良いのか。【市民委員】</p> <p>(11) 殆ど問題が無いといっても、流出した土砂が具体的にどこに貯まるのか、流下するのか分からないのに量を増やすというのでは納得できないので納得できる具体的な結果を示して欲しい。【市民委員】</p> <p>(12) 流下する土砂については、実際に頭首工の上流に堆積しているので、留意して欲しい。【関係機関委員】</p> <p>(13) 置き砂についての説明では、影響がなかったという結論だけを言われても、判断できないので、もう少し丁寧に結果を示して欲しい。【市民委員】</p>	<p>○ 置き砂の細粒土砂が流出してもすぐに海岸に流れるので気にしなくてよい。【学識委員】</p> <p>○ 相模ダムでは、ダム湖への流入土砂が特徴的であり、粒径の大きい土砂も存在するため、置き砂への適用としては良いのではないかと。【学識委員】</p>	
<p>(14) 座架依橋下流の河床整理については、悪い影響がなければ進めた方がよい。【市民委員】</p> <p>(15) 座架依橋の河床整理による影響は気になっているので、その部分を示して欲しい。【市民委員】</p>	<p>○ 座架依橋下流の河床整理は、河川施設を守るために行った治水対策である。その影響については、今後、状況を見ていく必要があると考えている。【事務局】</p> <p>○ 河道の横断平面形状は、河道特性に基づき規定される。そのため、その特性を踏まえて対策を実施することで持続性のある対策となるが、本地区の対策は小手先の対策であり持続性がない。【学識委員】</p>	

3. 第10回 相模川川づくりのための土砂環境整備検討会 議事要旨

第10回 相模川川づくりのための土砂環境整備検討会 (H26. 3. 24) 議事要旨 (3/3)

質問・意見		事務局・委員回答	対応等
4. 議事(3) 相模川水系総合土砂管理計画策定に向けた今後の進め方 1) 今後の調査・検討の方向性	(16) 人為的な要因により、そのまま放置すると問題となるものについては対応していく必要がある。一方で湾曲部の水衝部等、自然の要因で生じるものもある。これらの要因を分けて説明する必要があり、何を対象としてどうするのかを決めて初めてモニタリング計画が決まるものである。しかし、現在のモニタリング計画の資料はその整理ができていないため、今回の説明を割愛する。【行政委員】	○ その点は明確にしていく必要がある。【学識委員】	課題箇所について、要因分析を行い、人為的な要因（頭首工）と自然の要因（湾曲部・水衝部等）に分類した。人為的な要因については、総合土砂管理計画の中で対策を検討し、モニタリングについては今後検討を行う。
	(17) 次回の置き砂も同じ箇所と同じ内容を実施するのか。影響は無いけど効果も無いなら、内容を変えた方が良いのではないのか。【市民委員】	○ 少しずつ変えていきたいが、すぐに変えられるものではない。【事務局】 ○ 計画を策定するのは良いことであるが、労力がかかる。置き砂と両方するのは難しい。置き砂については知見を整理することに集中することも重要と考える。水系の言葉が気になる。海岸も含めた流砂系が分かるようにしてほしい。安倍川の事例も参考にしてほしい。【学識委員】	「3)置き砂」の項参照
2) 総合土砂管理計画策定に向けたロードマップ(案)	(18) 土砂の課題に対して解決策はいくつかある。小さな影響が多少でも、解決策を講じていくためには、実態を丁寧に見ていく必要がある。磯部頭首工では、サイフォンの露出対策が要因となっている。【行政委員】 (19) 土砂管理計画案が突然議題に出てきたが、策定する意味は何か。予算が必要だからか、何か要請があるからなのか。河川整備計画が策定されるのを待っているが、土砂管理計画との位置付けはどうなるのか。また、可動堰化と記載があるが、突然出てくると事業化が目的のように考えてしまう。中小規模洪水の維持の記載はありがたい。放流操作だけで改善できるのであれば是非して欲しい。【市民委員】	○ - ○ 多摩川の宿河原堰等の堰改築は、各種の課題があったが、流下能力だけでなく、土砂移動の観点からも重要であった。【行政委員】 ○ 土砂管理計画については、通常は個別の領域毎に対策を考えて行っても、個々の対策では限界がある。行政間も含めて課題を共有し、最適な取り組みを計画という形で整理することが重要である。複合的な効果がある方が予算の観点からも効率的・効果的である。【行政委員】	-
5. その他		-	-